君へ想う

赤井やう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
君へ想う

【Ｎコード】
Ｎ０７６３Ｄ

【作者名】
赤井やう

【あらすじ】
高校生の遊利は初めて恋をした。相手は年上なのに幼い容姿の少女で好きだけど恐くて伝えたいけど弱くてそんな純愛が今、音をあげる

今はまだ

年上の少女に

俺はこの想いを

初め、何してるんだと思った

１０月の秋

色とりどりの紅葉が舞う季節

色素の薄い琥珀色の長い髪

１５０にも満たない身長

彼女は紅葉に囲まれ

俺は心、奪われた

こんな想い
柄じゃないけど
止められない

それが
二人の出逢い
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
季節は冬

白い雪が
町中に浸透していて
息をするにも
肌寒くて
中々うまく、ままならない

今日はあまりにも寒くて、バイトを終えた俺は、人混みに紛れて足
早に目的へ向かった

そう、あの場所に

切符を一枚
電車に乗って三つ目の駅で降り、出入り口の横にあった自販機から
ブラックの缶コーヒーと
甘ったるいココアを２つ選んだ

冷めてしまわないように
コートの内ポケットに入れた俺は
早く会いたくて、彼女が居る所まで走り出す

そのあいだ、
走りながら想う

寒いから

大丈夫かな、とか

ココアの差し入れを

喜んでくれるかな、とか

考えるほど緩んでいく顔の理由は

俺が彼女に溺れてる所為なんだろう

そのくらい彼女を好きなんだろう

でも、
想いは告げない
何故なら今の現状に
十分満足しているから

だって彼女は俺しか知らない
いや、家族や友達はいるんだろうけど

他人の異性が知り合いには
いないらしい
つまり今のところ、安心できる

「ナギ」
ついた場所は町や住宅街から
ちょっと外れて在る空き地

「ぁ……遊君…」

振り向いた顔を見ると、
鼻と頬をほんのり紅くさせていて
いつからここにいたのだろう？
こんなに寒いのに

「遊君…？」

「これ、やるよ」

俺はナギの手をとり、ココアを渡した

大丈夫。
まだあったかい

「ココ、ア…？」

「俺からの差し入れ、…嫌い？」

「ううん。ありがとう…」

そう言って
嬉しそうに笑うナギは
どこか儚く
綺麗すぎて

遠い世界の
人間のようで

「あのね、今日は寒いからね」

「？」

「嬉しかったの…だから、早起きしてココに来たんだ」

「？？」

何を言っているのか
俺はよくわからなくて
一心に見つめているナギの視線の方へ、目を運んでみると

「…雪…」

「うん。朝来たらね、キラキラ光って…まるで銀色の宝石みたいに」

確かに朝なら、この真っ白く広がった空き地も
朝日で綺麗だったんだろうけど

今はもう、夕方になる

「って、ずっといたの？！」

このマイナス気温で
そんな寒そうな格好して

「だって、まだ見終わってないの」

…見終わってないって
朝から居たなら
十分なんじゃ…？

そう思ったが、
この場を離れようとする気配もないナギを
無理矢理、連れ出すわけにはいかないから

首に巻いていた黒のマフラーを
ナギにグルグルと巻き付けてやった

「ふひゃぁ～？！」

「風邪引くから、な。」

そしたらナギに会えなくなるし

「でも、遊君が風邪引いちゃ…」

「俺は大丈夫だから」

引いたって絶対ここに来る

「で、でも…」

「いーの」

やばい、ナギの困ってる顔
メチャクチャ可愛い…
なんかこー、
ぎゅーっとしてやりたくなる

「俺、重症かな…」

「え？……あ！遊君、遊君」

ナギは俺の小声が聞こえていなく、対して気にしないまま
俺の腕をグイグイ引っ張って
一面の雪に目を戻した

あまりに引っ張るから
俺はナギの目線まで屈んでみたものの

「ナギ、何なの？」

「ほら～、綺麗…」

「え？…わかんない」

ナギに言われて見渡してみても
俺に見えるのはただの雪
一体、ナギには何が見えているんだろう

「もっと、しゃがんでっ」

言われるまま、もう少し屈んでみれば

「うっわ…」

こんなの、

……初めてだ

「綺麗だねぇ…」

俺は感動した
言葉が出ない

目に映るそれは、夕日と混じり合い
少しながらも薄く、夕焼け色に染まって輝いていた

そうか、コレが見たかったのか
別の視点から物事をみると、こんなにも綺麗なのか

ナギは
一つのものを色んな方面から…

「ふぅーっ……おいしい。」

この風景をみれてナギは満足したのか、ココアを開けて幸せそうに
飲み始めた

まだ釘付けの俺の目

ナギ

俺とナギは同じものを見たけど

きっと

見えているのは違うんだろう

君の目に

俺は、どう映ってる？

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0763d/

君へ想う

2010年10月10日05時33分発行